

NPO研究委員会の活動と中越防災フロンティアの設立

社団法人北陸建設弘済会 野村敏雄

1. はじめに

社団法人北陸建設弘済会（以下、「弘済会」という。）の会員活動に北陸建設振興会議NPO研究委員会（委員長：野村敏雄。以下、「NPO研究会」という。）がある。平成16年から建設事業の振興に関するNPOのあり方を模索し、NPO法人設立を目標に議論を重ねていたところである。

一方、このNPO研究会とは別に、弘済会では、山古志復興新ビジョン研究会（事務局：弘済会、新潟経済同友会）で提案した復興リーディングプロジェクトの一つである被災経験を被災地域の復興に活かす手段としての「防災フロンティアエリア」構想を実現するために、「NPO法人中越防災フロンティア」の設立に向けて、準備事務局として資料作成や拠点整備を行ってきた。

本稿では、中越防災フロンティアの設立準備活動に参画しているNPO研究会の活動状況について報告する。

2. 「北陸建設振興会議NPO研究委員会」のこれまでの活動（H16.9～H17.8）

北陸建設振興会議は、弘済会の会員活動の一環とて行っているもので、弘済会の設立目的に沿って活動し、弘済会と一体となって北陸地方の発展と、会員相互の親睦・交流に寄与することを目的としている会議で、その一つに、NPO研究委員会がある。NPO研究会は、ボランティア活動の実践等を通じて、社会貢献意識の高揚に務めるとともに、NPO法人設立に関する研究などを行うことを目的としており、平成16年からNPO法人の立上げを検討し、事業内容などを議論していた。しかし、NPO立上げについては、事業内容の見通しや、多くの委員が会社等に勤めている状況のもとでは社内的に指導的立場にある以上、NPO法人活動と同時に行うことは、実質的に難しい実態にある等の議論がなされているところである。

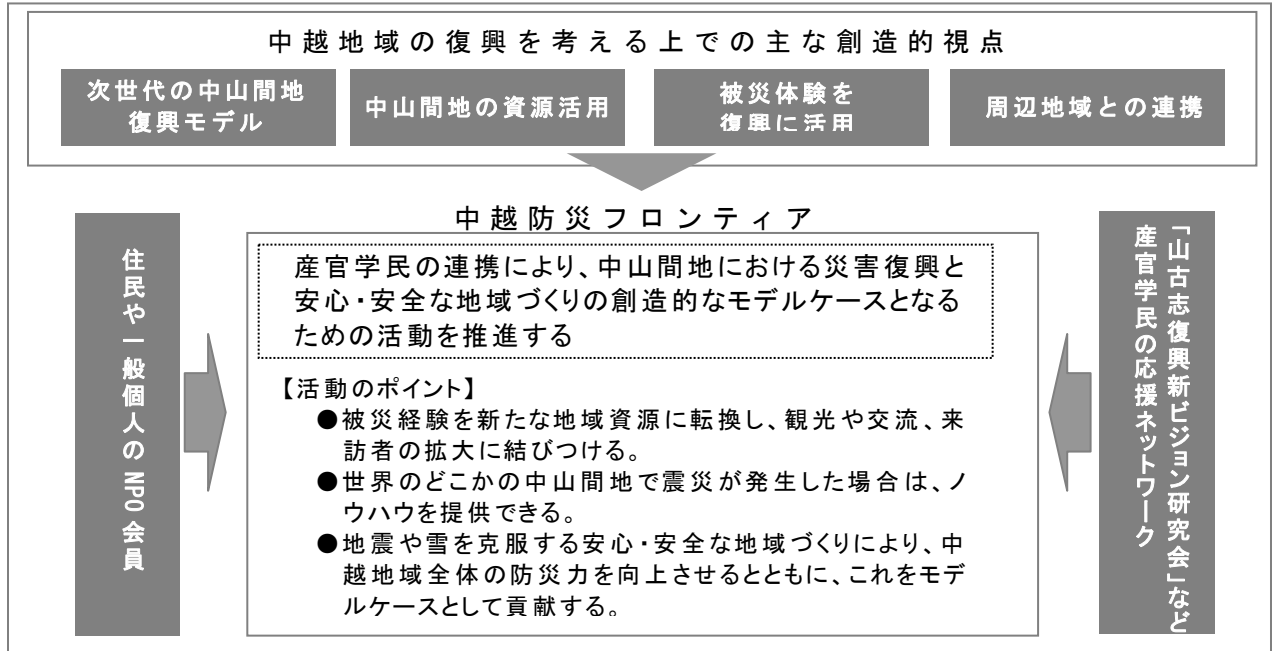
3. 「山古志復興新ビジョン」の復興リーディングプロジェクト

3.1. 山古志復興新ビジョン研究会（H16.12～H18.5）

山古志復興新ビジョン研究会は、新潟県内の経済団体、大学、研究機関を中心としたメンバー（事務局は弘済会と新潟経済同友会）で、旧山古志村を中心とした地域の再生計画を策定するために、住民と地域が求めるさまざまな分野から復興プランを検討し、平成17年5月に「山古志復興新ビジョン」を提言した。そのビジョンでは2つの復興リーディングプロジェクトを提案しており、北陸建設弘済会では、その一つである「被災経験を復興に活かす『防災フロンティアエリア』構想」を実現するため、活動母体となる「中越防災フロンティア」設立に向けて、準備事務局として資料作成や拠点整備を行っている。

3. 2. 中越防災フロンティア

「中越防災フロンティア」は、地域の物理的な再生・再建とは異なる視点で、地域の方々が将来に希望をもてる、新たな地域づくりの方向性や計画を希求することにある。それは、豊かな自然と資源に恵まれた中山間地域に人々の暮らしから無理なく広がる、「復興プロジェクト」を地域住民とともに立案、推進することとしている。



図－1. 中越防災フロンティアの活動概念図

3. 2. 1. 主な活動

- ①中越地震の被災体験を活かして、中越地域の防災学習や災害研究の拠点エリアとして情報発信を行う。
- ②山古志地区などの中山間地の資源を活用して新しい発想による地域づくりを進め、新たな産業の創出や交流の拡大を目指すための活動を行う。

具体的には、1. 災害アーカイブスの構築、2. 防災視察・研修・学習の実施、3. 地域資源・地域環境の再認識及び保全、活用の具現化、としている。

1. 災害アーカイブスの構築

中越地域を中心に、これまでに発生した災害に関するあらゆる情報を収集・整理する。そうした情報を加工し、災害や防災に関する情報を発信するとともに、防災研修用教材を作成するなど、災害・防災研究への活用を図る。

2. 防災視察・研修・学習の実施

行政職員や自治組織を対象とする防災視察を企画し、視察者に対しガイドを行う。そのために必要となるツアーマップやガイドブックを製作するとともに、視察ツアーをコンダクトする「ガイド」や「語り部」の養成にも取り組む。また、子供たちを対象とした防災を学ぶ学習の機会を提供する。

3. 地域資源・地域環境の再認識及び保全と活用

棚田は、いまや数少なく残された日本の原風景の一部である。震災により被害を

受けた景観や農地の整備はもちろんのこと、中越地震の地域資源や環境を再認識し、その保全と活用により、失われた生活文化を取り戻す。また、「はさがけ米」や野菜、山菜などの農作物等を中越ブランドとして全国に発信するなどして、被災地の復興を支援する。

3.2.2. 山古志の活動拠点施設

「復興支援山古志センター」の活用

山古志住民の協力を得て、山古志竹沢地区にある個人住宅の1室を拠点施設「復興支援山古志センター」として借り受けた。復興の糧となるよう、この施設を利用する際は、山古志住民などからなる「あねさの会」に昼食の用意をお願いし、地元の食材を使った料理を提供していただき、視察者からも上々の評判となっている。



写真－1. 復興支援山古志センター

4. 「中越防災フロンティア」設立に向けたNPO研究会の準備活動（H17.9～）

NPO研究会では、「NPO法人中越防災フロンティア」の立上げに対する動向を研究課題として取り上げ、その主旨を踏まえて、弘済会との協働作業として位置付けた。当研究会としては、行動可能で、かつ、地域貢献度の高い山古志復旧・復興支援活動となり得る下記の項目について、当面の業務支援として行うことで研究会会員が合意し、実施の段階に入ったものである。なお、弘済会では、会員も一体となった地域貢献事業の推進を図る方向で進められており、その先駆けとなる取り組みと位置付けられている。

4.1. 定点観測

平成17年は、まず山古志の被災状況を把握し、復旧・復興の過程を記録していくことを目的として活動した。「復興支援山古志センター」を活動拠点として、10月～11月の2ヶ月間、1班6名程度で4班体制の山古志調査隊を組み、10箇所での定点観測を行い、その結果はデータベース化して再活用可能としている。



写真－2. 定点観測の実施

表－1 定点観測地点

観測地点1	東竹沢地区芋川河道閉塞上流側周辺復旧状況
観測地点2	東竹沢地区芋川河道閉塞下流側周辺復旧状況
観測地点3	木籠集落の水没被災状況
観測地点4	梶金集落より国道291号法面崩壊による復旧状況
観測地点5	梶金集落内国道291号復旧状況
観測地点6	国道291号新ルートとなる山古志トンネル梶金側坑口
観測地点7	山古志スキー場山頂より竹沢集落周辺の棚田の復旧状況
観測地点8	羽黒トンネル坑口付近の大規模土砂崩れの復旧状況
観測地点9	山古志支所裏から見た棚田耕地の壊滅的な状況
観測地点10	虫亀集落近郊の棚田耕地の復旧状況

4. 2. 防災視察マップの作成

中越防災フロンティアの活動の一つ「防災視察会」等の準備として、「防災視察マップ」を作成した。この視察マップには定点観測で撮影した被災地の復旧状況を紹介している。

今後も復旧・復興状況に併せてマップをバージョンアップし、より良い資料となるよう改善していく予定となっている。



写真－3. 防災視察マップの製作

4. 3. 防災ガイド勉強会の実施

NPO研究会では、今後、視察会などで「防災ガイド」として活動していくために、被災地でボランティア活動や調査、視察会案内などを行っている上村靖司氏（長岡技術科学大学機械系講師）を講師に招き、「防災ガイド養成勉強会」を行った。

なお、ガイドする前の準備として、来訪者の視察目的、ルート設定、スケジュール、説明内容・方法についてのポイントや注意点を確認し、その後で、山古志を中心とする視察会のガイド内容について意見交換した。



写真－4. 防災ガイド養成勉強会

5. おわりに

平成18年5月8日に「特定非営利活動法人 中越防災フロンティア」設立総会が開催されたが、NPO研究会から3名が理事として参画している。現在、NPO法人としての認証申請中であるが、9月上旬には設立する予定であり、それまでには本格的な活動を被災地で展開できるようにしたいと考えている。